



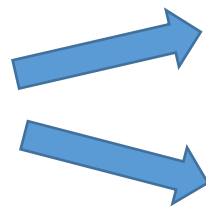
11月は薬剤耐性対策推進月間です！

薬剤耐性菌とは??

長期間にわたり同じ抗菌剤(抗生物質)を使用し続けると、細菌がその抗菌剤に対して抵抗性を獲得し、その抗菌剤が効かない細菌(=薬剤耐性菌)となってしまう可能性があります。

薬剤耐性菌は、薬剤耐性遺伝子

(特定の抗菌剤に抵抗するための遺伝子) 抗菌剤
を持っていて、他の細菌に伝達することも知られています。



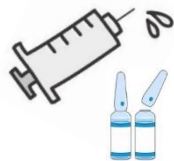
薬剤非耐性菌



薬剤耐性菌

本来有効なはずの抗菌剤が効かないため、代替薬がない場合や代替薬の効果が大きく劣る場合、重症化したり、死亡するケースさえあります。

畜産現場で使用される抗菌剤



家畜の疾病治療のための

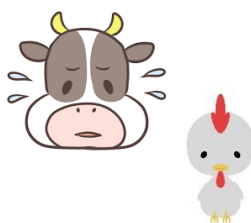
動物用医薬品



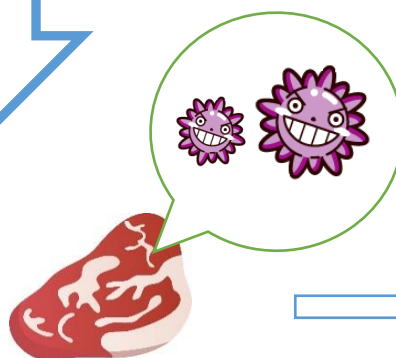
飼料の栄養成分を有効に利用するための

飼料添加物

むやみに抗菌剤を使い、
薬剤耐性菌を発生させてしまうと…



家畜の病気が治らない！



薬剤耐性菌が食肉などを介して
人の体内に侵入すると、**人の病気が
治らなくなる**ことも！

抗菌剤は慎重に使用しましょう！！

具体的には・・・

- ◎飼養衛生管理の徹底やワクチン接種などにより感染症を減らすことで、抗菌剤の使用機会を減らす。
- ◎過去の感染症の発生状況を確認し、原因菌を特定する。
- ◎抗菌剤を使用する際には感受性試験を行い、有効な抗菌剤を選択する。
- ◎ニューキノロン系抗菌剤は二次選択薬として、最初の治療には使用しない。



などの対策が有効です。

抗菌剤慎重使用の取組事例

◇肥育牛の1例

アンピシリン（抗菌剤）を第一次選択薬として3年間使用した結果、パストレラ菌が耐性化し、治癒率が50%に低下

感受性試験を実施→クロラムフェニコールが有効と確認！

- ・アンピシリンからクロラムフェニコールに抗菌剤を変更
- ・アンピシリンは3年間使用を休止

- ・治癒率が90%に改善
- ・アンピシリンに対する菌の感受性が変化→アンピシリンが再び有効に
→今後、クロラムフェニコールが効かなくなった場合、アンピシリンを再度使用することを検討



薬剤耐性問題は、今、世界的に問題となっています。

国産畜産物に対する消費者からの信頼を失わないため、また、家畜に対する抗菌剤の有効性を維持するためにも、畜産関係者が一体となって薬剤耐性問題に取り組む必要があります。

**家畜に異状が見られたら、
直ちに青森家畜保健衛生所にご連絡ください**

電話:017-764-1744（夜間・休日:090-2274-0474）

11月は薬剤耐性（AMR）対策推進月間です

～ 抗菌剤の慎重使用等対策を進め、消費者の信頼に応えましょう！ ～

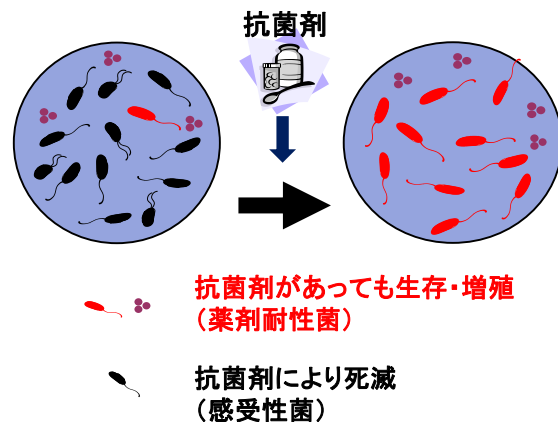
農林水産省 消費・安全局 畜産安全管理課

薬剤耐性菌とは？

薬剤耐性菌とは、「抗菌剤が効かない細菌」です。薬剤耐性菌は、抗菌剤の使い過ぎなどにより増加し、人や動物の治療が困難になります。

世界的に、薬剤耐性菌による感染症が増加しており、大きな問題となっています。

そのため、昨年5月にWHOが国際行動計画を採択し、我が国でも、本年4月、今後5年間に取り組むべき対策をまとめた行動計画（アクションプラン）が決定されました。

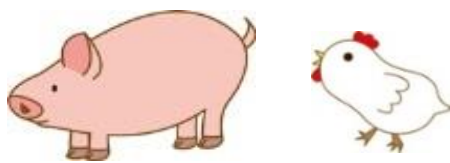


薬剤耐性問題と畜産との関わりは？

抗菌剤は、畜産分野でも、動物用医薬品や飼料添加物として使用されています。

家畜への抗菌剤の使用により増加した薬剤耐性菌が、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して、人の感染症の治療を困難にすることが懸念されています。

そのため、アクションプランでは、人の医療分野とともに、畜産分野において必要な取組が記載されています。



畜産関係者が実施すべき対策は？

生産者や獣医師をはじめとする畜産関係者には、薬剤耐性問題を理解し、「**抗菌剤の慎重使用**」を徹底すること等が求められています。具体的には、

- ① 飼養衛生管理の徹底やワクチンの使用により感染症を減らすことにより、抗菌剤の使用機会を減らすこと
- ② 抗菌剤の使用を真に必要な場合に限定すること

が対策の基本となります。



国産畜産物に対する消費者からの信頼に応えるため、また、家畜に対する抗菌剤の有効性を維持するためには、**畜産関係者が一体となって対策に取り組む必要**があります。



皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

詳細は、農林水産省HPに掲載しています。

農林水産省 抗菌性物質

検索



<http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/koukinzai.html>